

私たちと水

いまだ記憶に新しい東日本大震災。水道などさまざまなライフラインが被害を受け、私たちが普段、何気なく使っている水の尊さが再認識されました。

また、9月上旬の台風12号によって、紀伊半島などで河川の氾濫などが発生し、水の恐ろしさも知ることになりました。

今回は、田原市の「水」についてご紹介します。

水不足に悩まされた渥美半島

田原市は半島という地形から、降った雨はすぐに海に流れ出してしまいうため「水」の自給率はごくわずか。古来から慢性的な水不足に悩まされてきました。

それを救ったのが豊川用水です。昭和43年に全面通水してからは、渥美半島の農業は飛躍的に発展してきました。

森林の公益的機能

皆さんは森林が「緑のダム」と呼ばれるのをご存じですか。森林に

降った雨や雪などは、すぐには川に流れ出ません。土壌生物の働きでスポンジ状になった土壌に、たっぷりと吸収されます。そして、ゆっくりと流れ出ることによって洪水や渇水が緩和され、ダムのような働きをします。

この機能と、土壌に浸透した水をろ過してきれいにする働きを合わせると「**水源かん養機能**」といえます。

しかし、森林が健全な状態でなければこの機能は発揮されません。奥三河の森林も、上流域の方々が間伐などの大変な作業を行い大切に育てているからこそ、下流域の私たちにきれいな水が届いています。

設楽ダム

とよがわ豊川の上流域、山々と豊かな水源に囲まれた自然あふれる設楽町。田原市の姉妹都市である同町に、設楽ダムの建設が予定されています。

設楽ダムは、新規利水、洪水調整などが主な役割です。「**新規利水**」では、小学校の25mプールを約10分で一杯にする量の水道用水や農業用水が新たに利用できるようになります。「**洪水調整**」では、ダムに水を貯め、大量の雨水が一度に豊川に流れ出なくなるため、堤防の決壊などの被害が防止されます。150年に

一度の規模の大洪水が発生した場合、基準地点では水位を約1m下げることがあります。

一方、ダム建設に伴って、設楽町内の124世帯が水没などにより移転を余儀なくされます。

◎設楽ダムを知るツアー

田原市では、9月23日（金・祝）、設楽ダム建設予定などを訪れる「設楽ダムツアー」を開催。市民19名がダム建設に伴う水没予定地などを見学しました。参加者からは、「この景色が水に沈むことを考えると胸が痛む」と感想があがるなど、上流域住民の苦勞を知り、相互理解を深めていかなければならないことを学びました。

水でつながる「こころ」

農業や工業をはじめ、田原市民の生活を支えている潤沢な「水」は、水源地域の理解や協力によって届けられていくことを、私たちは忘れてはなりません。



▼政策推進課 ☎23局3507